

(株)キンソー / LED装飾「Illumination Mirror (イルミネーションミラー)」

LEDで光り輝くエンドパネル! ファンの記憶に残るホールを創出



妻板設置タイプの「イルミネーションミラー」。フルカラーで賑わい感を創出する。黒い部分は鏡面となっており、空間の奥行き感を演出。さらに、鏡面とLEDの光によるコントラストで、ラグジュアリー感を醸成する。なお、鏡面パネルはガラスと樹脂から選択できる

今、記憶に残る店内装飾の重要性が、注目されている。

数多あるホールの中から、自店を選んでもらうには、まず、遊技ファンの記憶に残らなくてはならない。加えて、ファンは、たとえ還元率は高くとも、内装がみずばらしく、設備も古い店舗より、デザインや装飾物など、すみずみまで気をつかった、いかにも「儲かっている店」を選ぶ傾向がある。

ゆえに、個性的でスタイリッシュ、かつ、豪華さや上質感にあふれた空間を作り上げることは、集客に不可欠なのだ。

また、ファンの行動に大きな影響を与えるのが、口コミ。来店した人が、その店のことを誰かに喋りたくなる状況を作ることが、その第一歩。要は、ファンの想定以上の体験をさせ、「スゴイ!」と感じさせればよい。

それは出玉に限った話ではなく、オシャレさや格好良さといった店舗の印象や雰囲気でも創出できる。思わず誰かに伝えたいくなる、印象度の高い内装……。そうした観点からも、店内装飾のあり方を見直す必要があるのではないかと。

そこで、ホール装飾のスペシャリスト、「キンソー」(本社・大阪府東大阪市、吉村勇社長)が提案するのが、LED装飾「Illumination Mirror (イルミネーションミラー)」だ。

同商品は、端的に言うと、「美しい幾何学模様をあしらった、光る鏡」。妻板(エンドパネル)に鏡面パネルをはめ込み、妻板に内蔵したLED光源がパネルを照射、さまざまな光の演出を映し出すというシステムだ。

鏡面に描かれた模様は、1枚ずつ職人の手でサンドブラスト(表面に砂などの研磨材を吹き付ける加工法)したもので、上質かつ、アーティスティックに仕上がっている。

さて、ホールの遊技スペースやセンター通路に足を踏み入れたとき、真っ先に目に入るのは何か? やはり、妻板や鳥飾りではないか。つまり、妻板や鳥飾りに意匠を凝らすことは、自店の印象をファンに刻み付ける、最初の一步と言えるのだ。

ところが、案外ホールはこの場所に無頓着で、単に店名ロゴが描かれているだけといった店も少なくない。

キンソーでは「妻板や鳥飾りは、ホールの雰囲気や印象を決定づける重要な装飾品で、ホールさまの顔と言えるのではないのでしょうか。装飾品としての「モノ作り」を追求してきた当社ですから、よく見かける一般的なものではなく、ホールを訪れたお客さまに強く印象付けられる装飾品を提供し、他店にはない雰囲気作りをしてもらえるよう、「イルミネーションミラー」を開発したのです」と話す。

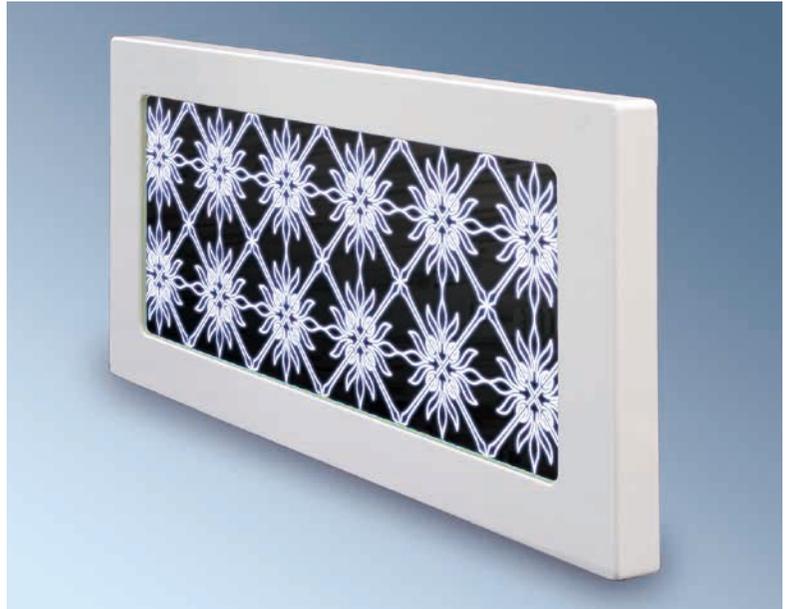
それでは、「イルミネーションミラー」の詳細を見ていこう。



シンプルでモダンな白。匠の技によって仕上げられた幾何学模様も美しく浮かび上がる



LED照明幕板「エコッパ」



幕板タイプの「イルミネーションミラー」。通路だけでなく、島内のイメージの統一に貢献

匠たくみの技で鏡面に描かれた模様は、日本の伝統紋様を思わせる幾何学的なパターンが中心。標準の柄は4種類というが、「柄はあまりに個性的だと一般受けしませんし、飽あきがくるのも早い。建築業界からも学ばせてもらい、誰もが飽きのこない、抽象的な図象を選んでいきます」と言う。

もちろん、店舗独自のカスタムデザインにも対応しており、店名ロゴや、ホールの要望を反映させた図柄など、デザインを含め、同社が請け負ってくれる。

次に、鏡面パネルを照らすLEDだが、色はフルカラーと白を用意。フルカラーは、色彩の洪水で華やかな賑にぎわい感を醸しやうせい成。白は上質感あふれるモダンな印象となっている。なお、白はLED光源を鏡面パネルの左右に設置し、導光板を介してパネルを照らすため、妻板の厚みはたった50mm程度。フルカラーはパネルの背面から直接照射するため、約100mmの厚みが必要となる。

その点灯パターンだが、点灯部分_分が上下左右に流れたり、ランダムで入れ替わって点滅するなど、10種類超。フルカラーは、全体の色が赤、青、黄…と次々に入れ替わったり、グラデーションで変化するなど、さらにバリエーションが豊かになる。

もちろん、ホールを盛り上げる機能も十分。呼び出しランプからの大当たり

信号を受信し、色や光り方のパターンを変えることで、通路を歩くファンにアピール。遊技意欲かんきの喚起にも直結する。

さて、ここでもう一つ。自店の印象をより効果的にファンに、刷り込む。ためには、店内装飾を含め、イメージの統一感が重要となる。例えば、妻板だけでなく、幕板にも「イルミネーションミラー」を採用すれば、店の印象度はグッと高まるはずだ。

そこで紹介したいのがLED照明幕板「エコッパ」。

幕板に薄型のLED照明パネルを組み込んだ製品で、もともとホールの照明設備として開発されたものだが、光る幕板としてエコッパに鏡面パネルを取り付けることで、幕板バージョンの「イルミラー」とすることができる。

エコッパには、4段階の調光機能が付いており、島端からリモコン操作で1列変更も可能。

また、信号入力4入力に対応しており、呼び出しランプからの信号に応じ、光り方のパターンを変えることで、スタッフの迅速な対応や、ホールの盛り上げに貢献してくれる。

これまで以上に、空間作りの重要性が増している今だからこそ、「イルミネーションミラー」で個性と統一感のある店舗イメージを創造し、ファンに「スゴイ！」と感じてもらえる、ホールを実現してほしい。